



BNE校の校章

BNE校だより



南十字星

2017年度
第7号

クイーンズランド補習授業校
校長 清村幸一

今年度、前半終了!

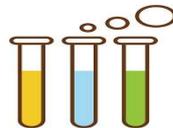
中一、栗田瞳志君の「誓いの言葉」に感激した入学式から、はや半年。今年の前半が終了しようとしています。昨年より人数も40人ほど増えましたが、先日の運動会では、保護者の皆様のご協力のもと、本当にスムーズに競技が進行しました。

楽しかったという声が低学年からも高学年からも、保護者の皆様からも聞こえてきました。

後半の3学期には、補習校祭りがあります。保護者会役員さんたちは、今年も「子供たちが楽しかった。」といってくれるようにと、様々なアイデアを練ってくれています。先生方も、午前中の各学年のステージ発表で日頃の学習の成果や学級のまとまりを披露すべく、短い時間を工夫しながら、準備を始めています。クラスのまとまりや仲の良さ、補習校って楽しいという思いが必ず良い授業につながると信じます。後半も、どうぞよろしくお願いたします。



理科学習特集



9月2日は、理科学習日でした。今回も、先生たちは学年に応じて様々な工夫をし、楽しい授業が展開されていました。日本のように実験用具がきちんとそろっていないので、こちらで手に入るものを代用しての授業です。

5年生は、「電磁石の性質」の学習で、ストローを利用した手作りのクレーンを作り、持ち上げられるクリップの数などで電磁石の強さを比べていました。



6年生では、ムラサキキャベツ液を使って、酸性・中性・アルカリ性を調べていました。

教科書にもムラサキキャベツ液で調べられていますが、今回は担任の先生が自宅で作ってきていました。

ものによって、色が赤から黄色に変化します。アルカリ性のものは石鹼水をよく使いますが、最近は肌に優しいよう石鹼も中性のものが多く、なかなか黄色にはなりません。でも、自分たちの手で実験して結果を見る・・・やはり、理科は楽しいですね。



全校朝会のスピーチから



7月22日 平沼 力 君

昨日はとても寒かったですね。オーストラリアで冬にもっともかかりやすい病気といえば、日本と同じ、風邪とインフルエンザでしょう。意外ですがオーストラリアではいわゆる風邪薬は存在しません。風邪の症状を緩和するための漢方薬や解熱剤はありますが、医者にかかっても、「ビタミンCと水をたくさんとって、よく寝なさい」と、処方箋もなしで帰されるのが一般的です。風邪などの感染症にかかった場合、治る前に学校など人の多い場所に来ることは、他人にうつす危険性が高い無責任な行為として歓迎されません。

もし、風邪にかかったら、とにかく治るまで家でゆっくり休む、これがオーストラリア流の治療法です。皆さん風邪に気を付けて下さい。

私は、何年ぶりに風邪をひき、2日ほど寝込みました。熱が下がった後も、何日も咳が続いて苦しかったです。今度からは、帰宅したらうがい・手洗いをきちんとやろうと思います。(きよむら)

9月2日 平川 絢土 君

明日は父の日ですね。オーストラリアでは9月の第1日曜日ですが、日本では6月の第3日曜日です。これはアメリカと同じです。国によって父の日は違います。台湾では、8月8日です。八八で、パパと発音できるからです。

国によって日が違いますが、どこの国でも、お父さんに感謝する日です。皆さんはお父さんにどうやって感謝しますか。

全校朝会での平川君のスピーチの後、みんなに「私の父の思い出」を話しました。

父は無口な人で、二人でじっくり話した覚えがありません。また、めったに叱られることもなかったのですが、一度だけ高校生の頃、父から叱られたことがありました。勉強もせず、吹奏楽にのめり込んでいた時です。父は少し酔っていましたが、勉強部屋に来た父は、勉強もせず寝ている僕を起し、「何をしに高校に行ってるんだ。」といいながら、バットでお尻を一発叩きました。そしてその後、「こんな風に育てたのは父ちゃんだ。父ちゃんにも責任がある。このバットで父ちゃんの尻を叩け！」と言って、私の勉強机に手をつけて、お尻を向けました。私はそんな父の言葉、そして父の姿に涙が止まらず、もちろん叩くことなどできず・・・

「父ちゃんごめん。これからちゃんと勉強するけん。」というのが精一杯でした。

父は30年ほど前、62歳で亡くなりました。私はこの前、亡くなった父の年齢を超えました。大人になり、結婚して自分も父親になったころから、『あのころ、父は何を考えていたのだろう。』と思うことがよくあります。もっといろいろ話しておけばよかったと後悔しています。

そんな無口な父が僕に残してくれた言葉が一つあります。「ええか、人間、最後は一人と思うとれ！」です。若い頃は「なんだかさみしい言葉だなあ。人間一人だなんて・・・。」と思っていましたが、大人になってわかるようになりました。父は役場に勤めていましたが、小さなコミュニティの中で、誰にも相談できず、一人で黙々と仕事をするのもあったのでしょうか。人生の中で、誰にも頼らずに、いや頼れずに、一人で切り抜けなくてはいけない場面が必ず来ます。そうして一人で苦しんでいるときに、親友ってというか、真の心の友が現れたりもするのですよね。

みなさん、お父さんが生きていうちに何でも聞き、何でも話しておきましょうね。(きよむら)